山形・金山　地に馴染む“建築様式の創生”物語－金山職人が金山杉でつくる金山型住宅－

東京藝術大学美術学部建築科　講師　博士(工学)　河村 茂

１．宮沢賢治が描いた理想郷　イーハトーブの世界

金山の町は、山形県の東北部・栗駒国定公園に位置し、トンネルを抜ければそこは秋田県という山奥にある。人口は7000人弱、面積は約160km^2、**農山村型の小さな町**である。山形新幹線の終着駅・新庄から国道13号線を北に進み、上台峠を越えると突然に視界が開け、ピラミッドの形をした山々（標高200m）が半円を描く、その盆地の中に金山の町は姿を現す。金山は、町域の4分の3を森林（その半分は民有林）が占め、林業が盛んで幾星霜を経ても変わらぬ杉の美林に囲まれ、平地部には田園（町域の約1割）が広がっている。

上台峠からの眺望

山形・金山町の位置

イザベラ・バード記念碑

金山の地は、夏は高温多湿、冬には気温が下がり雪が沢山降る、そんな気候風土から山々には水がたっぷり蓄えられ、染み出る流水の一部は水路となり町中をめぐる。市街には、樹齢250年を超える太径（高さ60m、直径2m近い）で上質な地場産の金山杉(通常、50年ものの杉が主流のところ、金山では樹齢80年以上のものとしている。)を用いて造られた、木組・下見板張り白壁・切り妻屋根の住宅（平均床面積は60坪で日本一）が続き、道際を住民の手による草花が彩る。

この地の情景は、1878年（明治11年）、英国人旅行家イザベラ･バード女史が、自著**『日本奥地紀行』**に「とてもロマンチックな雰囲気の漂う場所である」と書き留めたように、まるで宮沢賢治の**イーハトーブ（理想郷）の世界**に迷い込んでしまったかのような錯覚を覚える。

２．まちの危機

○産業、生活、文化など各面で衰退化　工業化工法、全国標準デザインの住宅建設が進む

この地は、季節の変化にあわせ装いを変えるが、その骨格構造に大きな変化はない。従って、このロマンチックな風景を継承しようとすると､その基盤をなす自然の山々や田園がつくる**「地」**に馴染むよう、建築物など可変性の高い人工の構築物が描く、**「図」**を如何に設えていくかとい

うことがテーマとなる。金山の場合、図をつくる建築物の多くは住宅であり、この地の図づくりの主要な部分は、住宅建設が担っている。

しかし、この地の住宅建設、1970 年代に入ると異変が見られるようになった。これまで、この地の住宅は柱や梁などの主要構造はもちろんのこと、その下地や造作なども含め、地場の材料を用い伝統工法で造られてきた。しかし、近代化の進展とともにハウスメーカーが供給する、鉄材で構成される**全国標準デザインのプレファブ住宅**（規格型住宅）が、この地でもみられるようになってきた。これは、この地の風景にとって大変憂慮される事態である。

しかも、住宅建設の主要な資材が鉄製部材となると、地元産の木材が使われなくなり、この地の基幹産業である林業が衰退、また木造住宅建設の担い手である大工など職人の**仕事も減り**、**地域経済は疲弊**、町民の**生活も不安定**なものとなる。そうして**木材需要が縮小**し植林や伐採で人が山に入らなくなると、**治山治水もおざなり**となり災害を誘発する危険が出てくる。

こうして金山の町では街並みが乱れるだけでなく、産業、生活、防災等の面からも、地域の衰退が危惧される状況を迎えた。事実、金山の地では第一次、第二次産業ともに雇用が減り、一家の所得を確保するため都会に出稼ぎに出るなど、町民の生活にも影響が出始めていた。

３．地にあった図を描く　ローカル・ファースト※の実践、場所のもつ固有性の発揮

金山では、1958 年、リーダー・岸洋一町長が欧米視察の成果をふまえ、この地独特の風景の維持継承を目標に「美しい街並みの形成」をまちづくりの**コンセプト**として**明示**した。しかし、目標実現には長い時が必要なことから、まずは町民意識を啓発するべく、1963 年に「**全町美化運動**（後、街並み景観づくり 100 年運動へと進化）」をスタートさせる。そして 1973 年には、役場前の農業用水路(町民が組合を組織し管理。管理費は、農家 300 円/1 町歩、非農家 500 円/軒、池があれば＋700 円、浄化槽があれば＋1000 円)に鯉(250 匹)を放流し水質浄化を実践する。

次の町長もこれを引き継ぎ、**7 期 27 年の任期をいかし**、腰を据えまちづくりに取り組む。即ち、美しい街並みの形成にあたっては、住宅建設を介し林業振興と大工など職人の雇用・所得の確保に向け、戦略的に取り組むこととし、産業・労働、生活・文化、治山治水など施策相互をつなぐ建築様式として「この地にあった住宅様式」の確立を目指し、イザベラ・バード女史訪問 100 周年の 1978 年に、商工会を通じ住宅建築コンクールを始める。この時、あわせて建築資材となる金山杉をブランドとして育てるべく、後継者の育成も含め森林組合に青年部を結成する。

さらに、町は 1977 年～1983 年にかけ、美しい街並み形成を**先導するべく**、国の農村総合整備モデル事業制度を活用し補助金をもらい、**農業用水路「大堰」をシンボルプロムナード**として三面石張りで改修整備する。1970 年代後半に入ると、建築家などの協力を得て、学校・病院・葬祭場など、**「公共建築物のデザイン化」**に取り組む。そして 2004 年には、日本でも珍しい**屋根付きの橋、「きごころ橋**（幅３m、長さ 58m）」**を町のシンボル**として建造する。

樹齢 300 年近い大美輪の大杉　　大堰　　きごころ橋　　鯉が泳ぐ

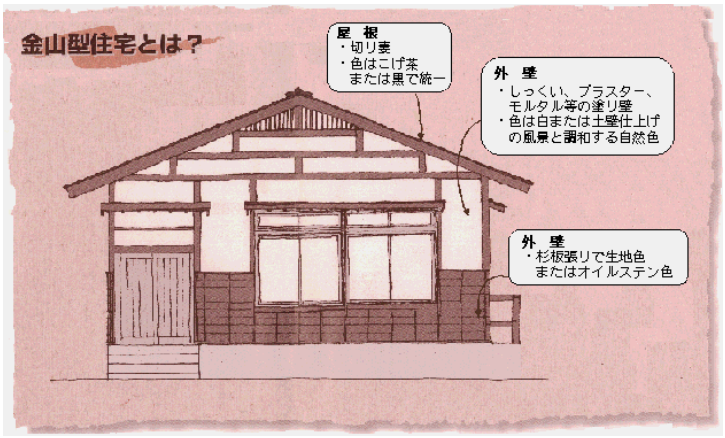
※ローカル・ファースト

地域を第一に、地域を優先的に考え、地域の文化・歴史を大切にして、住人がこの地で働き家庭を築けコミュニティが醸成されていくなど好循環を作り出し、持続可能な地域社会を形成する取組み。その戦略は、地域資源を発掘・活用し新たな製品や商品を開発、これをブランドに育てることが重要とされている。自立自尊のまちづくりを志向する。

○金山型住宅の確立

町は、そうした動きをふまえ、街並み形成の主要な対象である民間建築物の誘導を図るべく、1984 年に基本計画と誘導の仕組みづくりに入る。この時、**プランナー&デザイナー**として**専門家の知識や技術また感性**等が必要となり、町長の縁で芸大関係者と連携し、**目標としての地域住宅計画**を策定、これをうけ**施策の規範となる「街並み景観条例」**を制定、さらには住宅建築コンクールの成果をふまえ**「街並み形成基準」**を設定、この基準に適合した住宅を「金山型住宅」と称し、**助成措置**を講じ誘導していく。補助金は 30（今日では 50）万円が限度だが、新築はもとより増改築や屋根の色彩変更、生垣や木塀の設置なども含め、広く助成の対象とした。事業実績をみると、開始 20 年後（2004 年）には 118 件・助成金額も 1506 万 4000 円にまで育った。具体の建築指導にあたっては、景観審議会で芸大関係者が長期にわたり目を光らせた。

なお、街並み景観条例は、当初、町の中心部を対象としていたが、町民の要望をうけ**「風景と街並み景観条例」**に改正、全町を対象とし屋根の色彩変更等も含めることになった。また、中心市街に重点をおき公共施設整備（道路の舗装、水路の石積仕上など）にも力を注いだ。さらに、町は、**まちづくりの担い手・リーダーを育成**するべく、職員だけでなく町民もまじえ海外グループ**研修**を継続的に実施、まちづくりの**推進体制の強化**と**公民連携、協働化**の進展を図った。



金山型住宅の街並み

「地方創生」支援プロジェクト

４．凜として美しく古びる　オンリーワン、この地に誇りを持つ

こうして金山スタイルでのまちづくりが進み､その成果が広く世間に認知されるようになると、**マスコミ**もこの地を取り上げ全国に宣伝､これをうけ金山町の取組みに対する町民の評価も上がった。また、このことを聞きつけ観光客が訪れると、町民はこの地に誇りを持つようになった。

この街並み形成への助成事業､四半世紀で(事業開始の1986年から2011年2月まで)､累計約1400件（改築は全世帯数の1/3ほど）の実績をあげている。この間、町は2億2000万円ほど**補助金**を交付したが、これを呼び水にした民間建設投資は約90億円にも達し､助成の**乗数効果**は約40倍と算定されている。また､建設投資額の6割は町に還流し､町内産業を活性化し職人達の**仕事を創出**、町民の**生活の安定**に寄与している。

金山スタイル(金山職人が金山杉でつくる金山型住宅)での**美しい街並み形成、その要諦は「地図づくり」**を意識して取組んだところにある。即ち、土地の固有性をしっかり捉え、これにマッチした街並みをつくりあげるべく奮闘してきたということである。それも目標イメージとしてイザベラ・バードをとりあげ掲げ、**まちづくりに物語性を付与し町民の支持を得ながら持続的に進めてきた**ということである。今も続く街並み景観づくり100年運動、これは世帯数を2000とし毎年20件程助成すると、街並みを整えるのに100年かかるとして設定した数字である。この調子でいくと思いの外早く目標が達成されるかもしれない。

さて、このまちづくりの評判を聞いて、およそ10年ぶりに金山の地を訪れたという人に感想を聞いてみた。すると、「何だ、何も変わっていないじゃないか」といった。これを伝え聞いた町の人々は「あ、良かった」と思った。「何も変わっていない」ということは、進めている街並み景観づくりが、この地にマッチしていることの証左でもあるから。

金山の中心街

美林に囲まれた金山のまち

明治 12 年建築の旅館（現在は住宅）

（イザベラ・バードが泊まった）

参考文献等

村松真（2001）：「農山村における景観形成施策の特色:山形県金山町」農業経済研究報告、第 33 号 pp. 67～82

林寛治・片山和俊・住吉洋二（2002）：「山形県金山町のまちづくりと建築 2002」季刊自治と分権 20 号/ 自治労連・地方自治問題研究機構 編 pp107～112

須賀稔（2008）：「30 年でなしたこと 100 年でなしてゆくこと、山形金山町(地域再生公開講座)」関西大学シンポ

国土交通省（2009）：公共事業における景観整備に関する事後評価の手引き・参考資料「景観向上効果調査事例集」

金山町まちなみ研究会（2010）：「風景と街並み景観づくり 100 年運動」（一社)住まい・まちづくり担い手支援機構

片山和俊（2011）：「山形県金山町のまちづくり」ＣＡシンポジウム・レポート　(公社)日本建築士連合会

金山町ホームページ http://www.town.kaneyama.yamagata.jp/kanko/machinami/

掲載写真等

上台峠からの眺望　http://www.iju-join.jp/chiikiokoshi/search/detail/..

山形・金山町の位置　www.furusapo.jp/jititai/02touhoku/05yamagata/kaneyama/

樹齢 300 年近い大美輪の大杉　http://www.town.kaneyama.yamagata.jp/kanko/best-view/entry-480.html

大堰、きごころ橋、明治 12 年建築の旅館　http://www.town.kaneyama.yamagata.jp/

金山型住宅とは　http://www.town.kaneyama.yamagata.jp/kanko/machinami/

金山型住宅の街並み　http://mati.kitunebi.com/

金山の中心街　http://www. town.kaneyama.yamagata.jp/weblog/900/

美林に囲まれた金山のまち　http://www.town.kaneyama.yamagata.jp/kanko/best-view/entry-480.html